

りんごの音符



26

昨年音楽でスタートした「青い海と森の音楽祭」は、初回とは思えないほろもみスに進んだ印象です。アウトリーチ（出前演奏会）がこんなに多い音楽祭も他にはなく、いろいろなところに向いて、普段聴けるなという感じがしています。

昨年音楽祭でカルテットを披露しましたが、今年から同じメンバーで「アルメリア・フルテット」として登場します。ラールを演奏予定で、昨年のドビュッシーに続いて「真さん（チェロ）も同様にです。

チェロ 矢部 優典さん（東京都出身）

県美で演奏響き楽しみ

い人たちに音楽を届けたいというスタンスもずっと感じました。オーケストラメンバーはよく知っている方だったので安心感がありつつ、プロフェッショナルな雰囲気も感じられました。コンサートマスターの父（矢部達哉さん）と同じ舞台上に立つことになりましたが、僕は特別な気持ちはなく、気心が知れた親子という点で楽に弾けました。一緒に弾く機会は多くはないですが、父は不思議な緊張感があつて苦手な

ランスの音楽家の作品です。「青い海と森」という音楽祭の雰囲気に合っていて、今年の会場は県立美術館。絵画の前での演奏が、どんな響きになるのかすごく楽しみです。チェロを始めたのは8歳のころ。両親の勧めに「やる」と言っただけで

本格的に音楽に向き合うスタートは遅かったですが、のびのびした子ども時代を過ごせたのは良かったように思います。練習ばかりで遊べないというところから、高校でもたすら楽しく弾いていました。のちに結成したレクルス・フルテット。 ※今回は10月14日に掲載します。



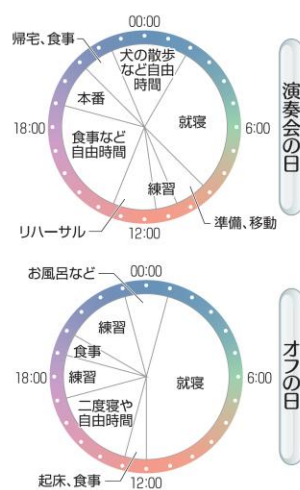
矢部優典さん

〈やべ・ゆうすけ〉1998年、東京都出身。8歳よりチェロを始める。桐朋学園大学音楽部リソト・ディプロマ・コース修了。毛利伯郎氏に師事。第86回日本音楽コンクールチェロ部門第2位および、ナカミチ賞。第69回全日本学生音楽コンクール高校の部第1位および日本放送協会賞を受賞。現在、NHK交響楽団チェロ奏者。

オーケストラ・プレイヤーとしてサイトウ・キネン・ホルン・宮崎国際音楽祭、サントリーホール ARKラリックスなどへ出演。音楽の分野においては「レクルス・フルテット」のメンバーとして活動しており、同団にて第43回群馬国際音楽祭賞および堤剛音楽監督賞を受賞。第31回松尾音楽助成を受給。



コンサート・中木健二・ロンドン・ディックが止まらない8で演奏する矢部さん・右から入目。2月、東京銀座の王子ホール



作曲家はこんな人

ドビュッシー

ドビュッシーは、19世紀後半から20世紀初頭にかけて活躍した、フランスを代表する作曲家の一人です。ドビュッシー以前の西洋音楽は基本的に長調か短調の2種類に分類できますが、ドビュッシーは多くの種類の音階を使って、自由で色彩豊かな音楽を追求して

いきました。それまでは西洋（ドイツ）中心だったものに、東洋の音楽や中世の旋法を取り入れたのが特徴です。また、ドビュッシーが切り拓いた「音の官能」は印象主義の幕開けとなりました。「音楽の革命家」と呼んでも過言ではない

でしょう。前述した東洋の音楽との出会いは、1889年のパリ万博でジャワのガムラン音楽を聴いたことだったようです。ドビュッシーは、西洋の伝統的な「機能」と声（ドミナントからトニックへ向かう約束事）が唯一の正解ではないことを悟り、大きな衝撃を受けました。東洋的な音階（全音音階や五音音階）は、音楽から「重力（中心となる調の引力）」が消え、音が空間を浮遊するような自由を手に入れたと分析する音

楽学者もいます。また、不安定な響きのまま放置したり、和音を平行に移動させたりしたことは「現代のジャズやオシャレなポップスのコード進行のルーツになった」とも言われています。次にドビュッシーの譜面に書かれた指示やペダルの使い方にも注目してみよう。ピアノは、鍵盤を押すことでフェルトのハンマーが弦を打ち音を出す構造ですが、ドビュッシーには「ハンマーのないピアノのように弾

け」というような指示を楽譜に記した作品もあります。2つのアラベスク、ベルガマスク組曲、弦楽四重奏曲、牧神の午後への前奏曲、ペレアスとメリザンド（オペラ）、交響詩「海」、映像、子供の領分、前奏曲集、遊戯など、ドビュッシーの名曲はテレビやドラマなどで多く使われています。ドビュッシーならではの不思議な感覚に触れてみてはいかでしょうか。（県吹奏楽連盟監修）

2026年10月31日～11月8日に第2回「青い海と森の音楽祭」が開かれます